

子どもに塗る繪りと貼る繪り

東京女子高等師範學校附幼稚園

及川ふみ

子どもにさせる塗り繪と貼り繪

雨のふるあさ。

廣いお部屋に集つた私の組の人たちで遊戯を始めやうとして、一人々々の顔を見まはすと、ついさつき、元氣に挨拶したばかりの弘ちやんも新ちやんと顔が見えない。

「おや、新ちやんも弘ちやんもゐらした筈なのに」

と獨言をいふと、

「え、今ね、マントに帽子をもつて裏のストーブ小屋へ、かたつむりごりに……」

私は

『そう』といつたまゝ、急いで裏へ行つて見た。

する、長靴の足もさ危く、石段にかけのほつて、獲物をねらつて手を伸して居るごころであつた。

「居ましたか」と、聲をかけると、鬼の首でもごつた様な顔つきで

先生、こんなのが……ほら』と、豌豆粒位のを手のひらにのせて見せた。そうして、うれしさうに可愛い肩をゆすりながら、いそぐ、お部屋に歸つて行つた。

『された？』

『されて？』

羨しそうに、みなが訊く。

私は、その日の切紙を「かたつむり」にしました。

▲つばめ

柳はみどりに、幹は茶色。お家は赤い屋根に青い壁。つばめは黒い紙のきりぬきで貼らせる。

▲かたつむり

大きな青桐の葉は緑に、幹は緑をすすくぬる。小さい二本の木は葉も幹もす緑にぬる。

かたつむりは茶色の紙にかいて、それをきりぬかせて貼らせる。



